

## 4 い さ か な お か す 猪坂 直一

明治30年—昭和61年（1897—1986）

蚕糸業・地方史研究家。養蚕仲買商の父謙吉、母きくの長男として横町に生まれる。大正3年（1914）、小県蚕業学校（現上田東高等学校）を卒業後、小牧養蚕組合や長野県蚕病予防事務所に勤務。その後、同5年（1916）に上田蚕糸専門学校（現信州大学繊維学部）養蚕科に入学。卒業後は上田蚕種株式会社に勤め、1年後の同9年（1920）9月に蚕糸雑誌社（袋町）設立に参画し、雑誌『蠶絲』を発刊。昭和4年（1929）に生糸の国社（坂井田町）を設立。蚕糸業界誌『生糸の國』の編集・発刊を手掛け、同じ業界誌の『蠶業評論』と共に蚕業界を盛り上げる。戦後に有限会社イサカ繊維工業所を設立し、紡績原料の製造を始める。同30年（1955）に大日本蠶絲会から蚕糸功績賞を受ける。『新撰養蚕教本』等、蚕業に関する著書を執筆した。

また、大正10年（1921）にか な い た だ し 金井正、や ま こ し し ゅ う そ う 山越修蔵らと信濃自由大学（のちの上田自由大学）を創立、機関誌『自由大学雑誌』の編集を担当する。後にこの頃の思い出を『回想 枯れた二枝』として出版した。このほかにも、歴史研究や古美術、短歌・川柳に親しみ、新聞や雑誌等に発表。地域の歴史に関する研究に造詣が深く、著書に『上田城物語』『真田三代録』『あらしの江戸城』等がある。